

コード 23-NPF-005

提出日：令和 6 年 5 月 1 日

令和 5 年度「平和にユナイト！パキスタンにおける青少年の 地域平和活動とアフガニスタンとの連帯」報告書

(※詳細、別紙ご参照)

団体名：一般社団法人平和村ユナイテッド 記入者名：小野山亮

1. プログラムの目的

2021 年、隣国アフガニスタンで、すでに勢力を拡大していたタリバンが急速に拡大し、実権を握った。その間、そしてその後、パキスタン側の国境地帯でも、アフガニスタンのタリバンと強い関係を持ち、パキスタン政府と対立するパキスタン・タリバン運動（TTP）や、タリバンとも対立する「IS」を名乗る勢力などの武装勢力の活動が活発になっている。武装勢力の士気の高まりや、外国軍撤退による「力」の空白などによるとの状況分析もある。さらなる戦闘や事件、市民の犠牲も起こるようになってきている。そうした中、TTP と政府との停戦も断続的に行われ、政府と TTP との間の交渉が続いてきた。アフガニスタンのタリバンがその仲介を行ってきたとされる。しかし、TTP が政府との停戦終了を表明。その後、事件が頻発するようになっており、治安がさらに悪化している。2023 年 1 月には活動地ペシャワールで自爆攻撃により 101 名の方が亡くなる事件があった。

そもそも両国国境地帯は、過去には、侵攻したソ連、また米軍など外国軍の軍事介入後には、両国政府や外国軍と戦闘を続けてきた様々な武装勢力が存在し、その思想や力の支配と影響力が強い土地となっている。そうした中、両国市民とも戦闘や厳しい治安状況の犠牲となっており、このことがまた、復讐心などから暴力的な過激主義の影響を受けやすい状況にもつながりうるという悪循環にもなっている。

青少年層はこうした過激主義の影響を受けやすく、さらには 戦闘などの「訓練」を受け（させられ）たりする状況があり、自爆攻撃の大多数が青少年によって行われているともいわれる。

青少年にとって、平和的・非暴力的な形で、感情を表現・共有できる、自己実現を行う、他者に関わる、社会参加する場がなければ、暴力や犯罪などに関わりかねないという大きなリスクがある。そこで、青少年にこうした平和的な場を設け、また進んで、自らが平和的な社会参加の活動を行うことで、さらなる自己肯定を平和的な形で行ってもらうとともに、社会の平和につながるそうした活動自体も促進していく必要がある。

また、パキスタンとアフガニスタンの両国間で「相手国側が自国の利益のために自分たちを攻撃する武装勢力を支援している」といった相互非難も見られる。過激主義それ自体は、存在する限り、どちらの国にも影響し、広がりうるものであり、どちらかでなくなれば、また何か特定の勢力がなければ、といった問題ではなく、両国でなくしていくこと、またそのためには、相互非難ではなく、両国間の交流や相互理解による信頼醸成や平和のための協力が必要である。

以上により、**暴力的な過激主義の影響を受けやすい青少年層による平和的な地域社会活動により、◎地域から暴力や紛争をなくしていくことを目的として活動を行っている。また、◎現在の危機にも対応するという目的から、新規の試みとして、22 年度からの、「より両国国境地帯に近い地域での活動を取り入れる」「地域の青少年たちが自身が研修者研修などを受けて地域で平和活動に加えて平和の学び合いも主導する」という活動に加え、23 年度は、「2021 年の激変を受けて難民となったアフガニスタンの青年たちの活動参加も図り」、また「活動の成果などを青年たちが報告し、社会や政府にも発信や提言を行うワークショップも開催する」。**

2. 主な活動内容・スケジュール

【活動1：準備活動】活動計画最終化、スタッフへの説明と研修、関係者への活動の導入的説明・協力要請など（4・5月）。研修マニュアル（ピースマニュアル）の作成（8-9月）。

【活動2：関係者協議】青少年グループならびに地域社会の人びとや諸関係者が参加する協議により、地域社会を構成する多様な層からの情報によって、活動の前提となる紛争に関わるセンシティブな地域状況を把握するとともに、地域社会の多様な層からの活動への理解と協力を得る。（6・7月）

【活動3：指導者研修】社会に多様に広がる過激化の場に鑑み、地域社会の多様な青少年層から、地域社会からの平和づくりを主導する青少年を、参加者として選ぶ（8月）。平和をつくる活動についての知識や技術を、参加型の学びの手法も交えて、実践的に、十分に身につけてもらう。（9-10月）

【活動4：地域での平和と平和活動の学び合い（地域ピースワークショップ）】研修を受けた青少年が主導し、研修内容やピースマニュアルを踏まえて、地域の人たちと平和と平和活動の学び合いを行う。身近な争いごとやその解決事例なども取り上げて議論する。（10月）

【活動5：地域での平和活動（地域ピースアクション）】研修を受けた青少年が主導し、地域の人たちとも協議を行いながら、青少年自身が地域で平和をつくると考える活動を実施する。（11-1月）

【活動6：アドボカシー・ワークショップ（WS）】青年たちによる社会各分野からのWS参加者への活動報告、参加者議論、社会・政府への発信を行う。（2月）

【活動7：アフガニスタンとの交流・平和のための両国間の連帯】2021年の激変後の人たちを含め、アフガニスタン難民の人たちの活動参加を図る（期間を通じて）。また、当団体のパキスタンでの協働団体 SPADO のスタッフが、当団体のアフガニスタンでの協働団体 YVO が開催するアフガニスタンでの平和活動経験交流会に参加する（ビデオ参加）（3月）。

【活動8：活動参加青年間経験共有・連帯。日本側も参加】活動参加青年間の経験共有、さらに日本側からのオンライン参加も行い、能力向上や連帯も実現する。（3月）

3. 助成を受けた活動の報告

【活動1：準備活動】スタッフ雇用・活動最終確認、スタッフ・オリエンテーションと研修、関係者への活動の導入的説明、マニュアルの作成を実施。

【活動2：関係者協議】17回実施：ペシャワール9回（男性7・女性2）、アフガニスタン・コミュニティ（ペシャワール）3回（男性2・女性1）（各回の新規難民の割合平均は約68%）、ハイバル5回（男性3・女性2）。活動全体につき説明。目的、手続き、協議参加者の役割と責任、活動参加青年たちの選定手続き、女性たちの参加などについての説明や議論を行った。

【活動3：指導者研修】参加者68人を選定：ペシャワール33人（男性23・女性10）、アフガニスタン出身者20人（男性14（うち新規難民8）・女性6（うち新規難民4））、ハイバル15人（男性15・女性0）。パキスタン住民とアフガニスタン住民間に不信感もあり、両者の長老間の会合をアレンジして活動を進めた。研修は3回実施（男性・女性各2・1グループ）。人権・平和・寛容・紛争解決・多様性・非暴力、青年たちの役割と責任、暴力的過激主義に関する青年たちの脆弱性やリスク要因、非暴力の紛争解決手段、地域の知見に基づいた地域レベルでの解決方法、紛争分析、この地での非暴力・平和運動・活動の歴史、イスラムの観点からの平和、地域の具体的な紛争やその解決、また、この活動における調整メカニズム・文書化・記録、この研修後の活動などについて説明・議論。

【活動4：地域での平和と平和活動の学び合い（地域ピースワークショップ）】17回実施（ペシャワール10回（男性8・女性2）、アフガニスタン・コミュニティ4回（男性2・女性2）（各回の新規難民の割合平均は約60%）、ハイバル3回（男性3・女性0））。計365人参加

(ペシャワール 225 人、アフガニスタン・コミュニティ 67 人、ハイバル 73 人)。男性 285 人、女性 80 人。参加者は、地域の長老、地域の政治指導者、宗教学者、教員、生徒、マドラサの教員と生徒、自治体議員、地域の青少年、地域の女性たちほか。平和、人権、包括性のためのイスラムの教えと価値などについての説明が行われた。ピースマニュアルも使用され、また参加者に配布された。

【活動 5：地域での平和活動（地域ピースアクション）】17 アクション実施：ペシャワール 10、アフガニスタン・コミュニティ（ペシャワール）3、ハイバル 4。計約 450 人が参加。参加者：青少年、教員、長老、ジャーナリスト、子どもたち、遺児・孤児のこどもたち、自治体の議員、学校の運営関係者、宗教学者ほか（別紙参照）。アフガニスタン難民の参加は 17 回中 4 回（男性 2・女性 2）。難民のみの会が 1 回（新規難民の割合は約 70%）。パキスタン・新旧アフガニスタン難民が参加の会が 3 回（割合は約 43・約 30・約 27%）。以下のアクションが実施された。

1. スポーツを通じて平和を！（男性グループ）。②スポーツを通じて平和を！（女性グループ）：女性のスポーツが妨げられるような社会環境の中での実施！③親を亡くした子どもたちのピースアート！：平和のメッセージを伝える絵を描く！多くの子どもたちが紛争中の爆破事件により親を失っている。④青年も参加する地域の争い解決の場をつくる！：現地の伝統的な紛争解決の場（ジルガ）は長老たちに率いられている中、青年もともに役割を果たす場を！⑤「平和大使」宣誓！：女性たち。平和構築における女性の役割、女性の教育の重要性などについて話し合い、地域で平和の活動を行っていく「平和大使」として宣誓！⑥アフガニスタン難民とユナイト！：両国住民間の不信を超え連帯のため話し合い！⑦ピースシアター！：無差別爆破事件をめぐるドラマを生徒が演じ、憎悪や「テロ」の拒絶を伝える！⑧地域のジャーナリストと議論！平和を発信！：その役割とどうできるかを議論！⑨政党のマニフェストに「寛容」を盛り込む！：大学において政党関連組織間での紛争が多数ある中での議論！⑩紛争の影響を受けた青年たちへの心理的サポート！：爆破事件、地域での争い、宗派間紛争などで紛争の影響を受けており、復讐も考えている青年たち。様々な手法によるセラピーを実施！⑪アフガニスタンの少女たちに教育の平等を！：アフガニスタン難民の女性たちが少女の教育を訴えられるようになってもらう話し合い！⑫平和をつくる！女性たちの役割！：女性に対する制限に挑み、青年女性が地域の平和促進に積極的に貢献するよう励ます目的での話し合い！⑬ブッダの目で平和を探る！：平和な社会を心に描き、平和の原理を反映する知恵を共有したブッダの人生と教えを探究！仏教に関する多数の展示もなされているペシャワール博物館を訪問！⑭戸別訪問ピースキャンペーン！：地域の様々な場所、人びとを直接訪れ、取りうる行動について説明と話し合い！⑮地域の宗教指導者との平和についての話し合い！：様々なモスクから宗教指導者を招いて実施！その教えに平和教育に関わるものを含めてもらうため、話し合い！⑯パキスタン・アフガニスタン・話し合いと食事会でユナイト！：両住民間で対立や衝突も起こっている中、先入観をなくし、誤解をただし、一体感や共通の人道性を大きくしていく交流を促進！⑰「パキスタンのメッセージ」ー過激主義を認めないー：総選挙を前にし、イスラムの教え、憲法、「パキスタンのメッセージ」を通じて、基本的権利、平和、共生、民主主義、過激主義を認めないことを学び、議論！「パキスタンのメッセージ」は、過激主義を認めないことを含む 1,800 人を超えるイスラム学者による統一見解を提示した文書。

【活動 6：アドボカシー・ワークショップ (WS)】46 人参加（男性 44・女性 2）。うちアフガニスタン出身者 7 人（男性 7（新旧難民各 3 人・4 人）・女性 0）。青少年。地域の人びと、市民社会組織（CSO）メンバー、国連関係者、政府関係者が参加。SPADO スタッフによる活動全体の説明では、社会の発展促進にあたっての青少年エンパワメントの決定的な役割を強調。活動青年たちによる活動報告では、ネガティブなコミュニティに建設的に関与するにあたってのコミュニケーション技術（そしてそれを研修で学んだ）の重要性や、アクション中に参加者が非難し合う状況になったが、研修で学んだ技術により状況が鎮められたことなども言及された。他参加者からは関連する取り組みの紹介などがなされた。

【活動 7：アフガニスタンとの交流・平和のための両国間の連帯】期間を通じて、アフガニスタン出身者（新旧難民）の活動参加を実現。詳細は各活動項目参照。SPADO と当団体のアフガニスタンでの協働団体（YVO）間の直接の平和活動経験共有は実施できなかったが、YVO が開催するアフガニスタンでの平和活動経験交流会に SPADO スタッフがビデオ参加し、パキスタンでの活動を共有した（3 月）。

【活動 8：活動参加青年間経験共有・連帯。日本側も参加】上記③④⑥⑨⑩（男性）、⑪⑫（女性）のアクションに関わった青年 7 人（男性 5・女性 2）が参加した。日本側からは 2 人参加。青年たちによる自身が関わった活動の説明を受けて、日本側から質問やコメントを伝え、それに回答してもらう形で進行。困難な中で様々な活動に取り組んできた青年間、また現地・日本間でも、情報・意見を共有。現地・日本間でも大きな連帯がもたらされた。

4. 活動の成果

- ・ **困難な状況の中での活動**：悪化する治安状況下、また、深刻な政治・経済・社会状況もある中、活動の中心となる青少年ほか、地域の人びと、様々な分野の人たちによる積極的な活動参加があり、地域での争いや解決などについての議論、そして地域の平和のためのアクションなどが実施された。本活動の場自体が極めて貴重で、参加者や社会にとっても希望になっていることを示している。
- ・ **22 年度からの新規の試み**：よりアフガニスタンとの国境地帯に近い地域（ハイバル）での活動、地域の青少年たち自身が研修者研修などを受けて地域で平和活動に加えて平和の学び合いも主導する活動を、今年度も行うことができた。
- ・ **23 年度の新規の試み**：2021 年の激変を受けて難民となったアフガニスタンの青年たちの活動参加も図り、また、活動の成果などを青年たちが報告し、社会や政府にも発信や提言を行うワークショップも開催するという活動を実施することができた。
- ・ **女性たち**：依然、活動参加には困難が多く、参加数も少ないが、女性たちの活動参加を実現できた。
- ・ **活動そのものの成果**：上記により、過激主義の影響を受けやすい青少年への平和的・非暴力的な自己表現・実現・肯定や社会参加の場の提供、地域社会全体での青少年や平和活動への理解と協力の促進、青少年の活動を通じた社会の平和につながる活動自体の促進ができた。
- ・ **活動地内外への波及の成果**：活動参加者は様々な地域の青年たち、地域の人たちであり、活動参加後に、自身の地域やほか様々な地域にその学びや経験を共有し、活動が広がっていくことが期待される。さらに、地域社会の多様な主体に加え、特に、人びとに敬意を持たれ影響力のある、宗教指導者やマドラサの学生の参加もあり、今後の波及が期待される。
- ・ **パキスタンとアフガニスタンの青少年の交流**：指導者研修、ピースアクション、アドボカシーWS で両者がともに参加する機会があり、ピースアクションでは両者の交流そのものを行う活動もあった。活動参加者や関係者、また一定程度、こうした交流の様子に触れた他の人びとにも影響を与え、両者間の信頼醸成や平和に向けた連帯と活動につながっていくことが期待される。
- ・ **活動の持続性**：過去の活動参加の青年が運営に参加するなど、活動の持続性が担保された。

5. 今後の課題

- ・ **過激化、暴力、紛争**に苦しんできた地域であり、さらに治安状況は極めて悪化している。パキスタンとアフガニスタン両国の対立も、依然、存在している。平和の試みはまだ限定的であり、こうした状況に対抗するためにも、引き続き、社会に根付き継続した取り組みを実施する必要がある。
- ・ **女性の参加**はある程度実現できたものの、依然、権利、行動、活動参加への制限があり、権利享受に困難がある。

以上